信州大学-Curtin University of Technology
大学間学術交流協定に基づく
平成 17 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書

信 州 大 学　　－2005－　Curtin

平成 17 年 12 月 1 日

信州大学医療技術短期大学部／信州大学医学部保健学科

【目次】

Ⅰ．　学術交流にあたって　・・・・・　3

Ⅱ．　学術交流の概要　・・・・・　4

Ⅲ．　カー ティン工科大学の概要　・・・・・　6

Ⅳ．　平成１５年度夏期海外単位認定プログラム　・・・・・　7

1.　はじめに

2.　夏期海外単位認定プログラム

3.　研修期間

4.　研修場所

5.　研修プログラムの内容　・・・・・　8

6.　参加人数　・・・・・　9

7.　指導教官

8.　研修費用

9.　研修日程　・・・・・　１０

10.　研修プログラム　・・・・・　１１

11.　学生アンケート　・・・・・　１４

12.　学生レポートおよび感想文　・・・・・　１７

（編集後記）　・・・・・　２５

（表紙の写真は，研修最終日の修了式が終わって，Curtin 工科大学正門にて）

I.　学術交流にあたって

－ はじめてのパース －

西オーストラリア州パースのカーティン工科大学への海外短期単位認定プログラムに今年度はじめて参加させていただきました。学生がホームステイファミリーのもとで生活し，毎日大学へ通い，英語を学び，オーストラリアにおけ Nursing，Biomedical Sciences，　Physiotherapy，Occupational therapy の教育を少しでも垣間見ることができることはすばらしいことです。29 名の学生たちはそれぞれ各人努力し，がんばったと思います。学生時代にこのような機会に恵まれた学生たちのことをとてもうらやましく感じました。

本プロジェクトでは事前のカーティン工科大学との交渉，プログラムの作成，航空券の確保など綿密な準備が不可欠です。これらの準備を滞りなく行い，渡航中も学生たちの安全と健康を気遣い，無事に計画を遂行してくださった教員や職員の方々に感謝いたします。また本プロジェクトに対して学長裁量経費をご配慮くださった信州大学役員会の皆様，基金を寄付してくださった信州大学医学部保健学科同窓会の皆様に深謝いたします。

2005 年 9 月 16 日

信州大学医学部保健学科長

市川元基

キングズパークから望むパース市街地

II. 学術交流の概要

1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

1) 1992 年 8 月，イギリス，ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授（現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長）と，カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。

2) 1997 年 3 月，藤原孝之，楊箸隆哉両教授（現 長野県看護大学教授）およびゴウ・アー・チェン助手（現助教授）の 3 名が，カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集と共同研究課題の打ち合わせを目的として，カーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長，健康科学部長，看護学科，医学検査学科，理学療法学科，作業療法学科等のスタッフとの会談の折り，両大学間の，より積極的な学術交流が話題となり，教員，学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。

3) 1998 年7月−8月，藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り，カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し，当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け，同大学教員が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。

4) 1999 年 3 月，本学藤原孝之，楊箸隆哉両教授がオーストラリアに出張した際，副学長ジョン・ミルトン−スミス教授，健康科学部長チャールズ・ワトソン教授，看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン，理学療法学科主任教授ジョン・コール，国際教育課程担当パム・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果，単一学部間に留まらず，広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際，カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。

5) 1999 年 4 月，学術交流協定を締結した。

6) 1999 年 5 月，横浜で開催された第 13 回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が，信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。

7) 2000 年 8 月，学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同 9 月，宮坂敏夫部長以下教官，学生 20 名がカーティンを表敬訪問し，各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後，部長のもとに 5 名からなるチームを置き，プログラムの実施計画を作成した。

8) 2001 年 8 月，信州大学医療技術短期大学部学生 32 名がカーティン工科大学にて第 1 回夏季留学・単位取得プログラムに参加した。

9) 2002 年（第 2 回）は 27 名，2003 年（第 3 回）は 24 名，2004 年（第 4 回）は 20 名，2005 年（第 5 回）は 29 名が夏季留学・単位取得プログラムに参加した。

2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999 年 4 月に締結された学術交流協定及び 2000 年 8 月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は，2004 年 4 月に信州大学とカーティン工科大学の間で，「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新された。有効期限は 2009 年 3 月までの 5 年間で，両校の交流は一層親密に深められることになった。

学術交流協定（2004.4～2009.3）

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

FOR THE DEVELOPMENT OF ACADEMIC COOPERATION

Between

CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
PERTH, WESTERN AUSTRALIA
through its Divisions of Health Sciences and Humanities

And

SHINSHU UNIVERSITY
NAGANO, JAPAN

In furtherance of their mutual interests in the field of education and research and as a contribution to increased international cooperation, Curtin University Of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities, and Shinshu University, have agreed that:

1. The two institutions will:

   i) cooperate in the exchange of information relating to their activities in teaching and research in fields of mutual interests;

   ii) promote appropriate joint research projects and joint courses of study, with particular emphasis on internationally funded projects;

   iii) endeavour to encourage students and staff to spend periods of time in the host institution. The exchange of students will be dependent upon the execution of a formal Student Exchange Agreement mutually agreed between the parties in writing prior to commencement of this activity;

   iv) conduct cultural projects, as mutually agreed in writing between the parties, prior to commencement of this activity;

   v) conduct study tours, as mutually agreed in writing between the parties, prior to the commencement of this activity;

   vi) provide Study Abroad opportunities at undergraduate and graduate level as mutually agreed in writing between the parties prior to the commencement of this activity.

Vice-Chancellor
Date: 18 FEB 2004

教員と学生の交流に関する協定書(2004.4～2009.3)

STAFF AND STUDENT
EXCHANGE AGREEMENT

Between

CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, PERTH,
WESTERN AUSTRALIA
through its Divisions of Health Sciences and Humanities

And

SHINSHU UNIVERSITY, NAGANO, JAPAN

Curtin University of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities (hereinafter referred to as 'CURTIN') and Shinshu University (hereinafter referred to as 'SHINSHU') agree to the following terms.

DEFINITIONS

In this Agreement, unless the context will otherwise imply:

HOME institution means the institution at which the student intends to graduate; HOST institution means the institution that has agreed to receive students from the HOME institution.

ACADEMIC YEAR in the context of CURTIN means two semesters, from February to June (Semester 1) and July to November (Semester 2); and in the context of SHINSHU means April to August (Semester 1) and October to February (Semester 2).

ACADEMIC STAFF means Teaching Staff.

EXCHANGE STUDENTS means students attending the HOST institution with no requirement to pay tuition fees to that institution and where reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for enrolment students from the HOST institution in exchange, subject to the conditions outlined in this Agreement.

STUDY ABROAD STUDENTS means students attending the HOST institution on a full fee-paying basis, where no reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for enrolment students from the HOST institution.

EXCHANGE PROGRAMS refers to students undertaking study at the HOST institution either as Exchange or Study Abroad students; and staff undertaking a period of exchange at the institution of the other Party.

CLINICAL PRACTICE refers to activities undertaken by students as part of their enrolled course requirements to develop their professional competencies in working with clients. Clinical practice necessarily involves intervention requiring substantial specialized

Koniyama Atsushi
President
Date: 12 March, 2004

III. カーティン工科大学の概要

1． 設立

1) 1967 年：The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。

2) 1987 年：Curtin University of Technology となる。

＊ カーティン工科大学の名称は，オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため，学内に国際教育担当部門を独立させ，情報ネットワークを整備し，国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996 年から，シンガポール，マレーシア，インドネシア，香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し，実績を上げている。大学院教育では，卓越した教育プログラムが評価され，アメリカ，カナダ，ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2． 位置

1) 西オーストラリア州唯一の工科大学（国立）

2) メインキャンパスはパース（Perth：西オーストラリア州の州都。人口約 120 万）の郊外ベントレー（Bentley），中心部より 10 キロ南東へ位置（海岸まで車で 20 分）に立地し，他に 4 キャンパス（Kalgoorlie, Muresk, Sydney, Miri; Malaysia）を有する。

Address：Kent Street, Bentley, Western Australia, 6102 Australia
TEL ：＋61-9206-9266
HP-address： http://www.curtin.edu.au/

3． 学部等

1) 学部（5 学部）：健康科学部（生命科学，臨床科学，保健科学；7 学科 21 領域），経営学部，人文学部，理工学部，資源・環境学部

2) 大学院：経営学，健康科学（73 領域），人文科学，理工学，資源・環境

4． 学生数および教職員数

1) 学生数： 32,000 人

2) 教員数： 1,250 人

3) 職員数： 1,738 人

学生数 2005		
2005	3月31日現在	8月31日現在
(a) 合計	32,284	31,592
BY CITIZENSHIP GROUP		
(b) オーストラリア国籍	20,004	18,966
(c) 留学生（110ヶ国以上）	5,983	5,934
(c / (b+c)) 留学生比率	23.00%	23.80%
(d) 在外学生	6,288	6,669
(e) インターナショナル学生（留学生＋在外学生）	12,271	12,603
(e/a) インターナショナル学生比率	38.00%	39.90%
BY GENDER		
女性	16,978	16,574
男性	15,306	15,018
女性比率	52.60%	52.40%

Ⅳ. 平成17年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間学術交流協定にもとづき，平成17年度夏季海外単位認定プログラムが平成 17 年 8 月 13 日から 9 月 3 日の約 3 週間にわたり，カーティン工科大学及びパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには 29 名の信州大学医療技術短期大学部および信州大学医学部保健学科学生が参加した。

2. 夏季海外単位認定プログラム

1) 目的： 他文化での学習・生活体験を通じ，国際的視点から，社会の要請に応えられる医療従事者としての態度を涵養する。

2) 本学における単位認定： 参加コースに応じて本学の単位として認定する。単位認定には，カーティン工科大学での全てのプログラムに参加することとし，研修レポートの提出が必須である。

【認定予定単位】

(1) 保健学科 ： 国際医療協力論

(2) 専攻科助産学特別専攻 ： 原書抄読

3. 研修期間

研修期間：平成 17 年 8 月 13 日（土）〜9 月 3 日（土），22 日間

4. 研修場所

1) 研修キャンパス； カーティン工科大学ベントレーキャンパス

2) 見学施設/演習場所 ：

(1) 看護学／助産学特別専攻

① Royal Flying Doctors Service of Australia, Jandakot Airport

② Princess Margaret Children's Hospital, Perth

③ Quadriplegic Centre, Perth

④ Mount Hospital, Perth

⑤ Craigwood Nursing Home, Perth

(2) 検査技術科学

① Royal Flying Doctors Service of Australia, Jandakot Airport

② Princess Margaret Children's Hospital, Perth

③ Royal Perth Hospital, Laboratory Medicine, Perth

④ Private Laboratory, Fremantle

⑤ ILC: The Niche, Independent Living Centre, Perth

⑥ Australian Red Cross Blood Service, Perth

⑦ Laboratory Practice, Curtin University

(3) 理学療法学／作業療法学

① Royal Flying Doctors Service of Australia, Jandakot Airport

② Princess Margaret Children's Hospital, Perth

③ Fremantle Hospital, Fremantle

④ Brightwater Care Group Inglewood, Perth

⑤ ILC: The Niche, Independent Living Centre, Perth

⑥ Anatomy practical session, Curtin University

5. 研修プログラムの内容 (Curtin University of Technology)

第 1 週;Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional (DOLIE*)

- カーティン大学および DOLIE のオリエンテーション。
- 英語力診断試験。
- DOLIE による英語および医療英会話の授業。
- キャンパスツアー。
- 各専攻別大学専門施設, 研究室, 実験施設見学。

(* DOLIE: Department of Languages & Intercultural Education)

第 2 週 ; Combined Lectures(合同講義)

- ヘルスケアに関する専門領域の講義。

① Health Careers: Professional Structures in Australia(看護・検査・作業)

② Community Health Care

③ Health Sciences Education at Curtin

④ The Australian Health Care System

⑤ Neuroscience(講義及び実習, 理学)

⑥ Continence & Women's Health(実習, 理学)

第 3 週; Tutorial, Practice , Clinical Visits & Graduation Ceremony

- 専攻別専門領域の講義, 施設見学, 実習, 討論。

【看護学/助産学特別専攻】

① 専門領域講義:Aged Care/Geriatrics, Pediatrics, Rural Health Issues

② 施設見学:4. 研修場所の頁を参照。

【検査技術科学】

① 実習(Fremantle の私立検査室, カーティン工科大学内検査室)

② 施設見学:4. 研修場所の頁を参照。

【理学療法学/作業療法学】

① 実習(解剖学)

② 施設見学:4. 研修場所の頁を参照。

6. 参加人数

看護学	:	13 名 (2 年生 11 名, 3 年生 2 名)
検査技術科学	:	4 名 (2 年生 2 名, 3 年生 2 名)
理学療法学	:	9 名 (1 年生 2 名, 2 年生 5 名, 3 年生 2 名)
作業療法学	:	1 名 (1 年生 1 名)
専攻科助産学特別専攻	:	2 名
合計		29 名

7. 引率指導教員

市川元基学科長, カーティンプログラム担当教員(大平雅美 教授, 奥村伸生教授, Goh Ah Cheng 助教授, 上村智子 助教授, 柳澤理子 助教授)

(市川学科長, 奥村教授, 上村助教授は 1 週間, 大平教授, Goh 助教授, 柳澤助教授は 3 週間)

8. 研修費用

研修費用:学生一人 35 万円

【内訳】

・往復航空運賃	175,550 円
・特別プログラム授業料 英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法, 作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用)	121,800 円
・滞在費 (3 週間)	43,350 円 (ホームステイ, 食事込)
・貸し切りバス (成田往復)	8,300 円
・指導料・その他諸経費	1,000 円
計	350,000 円

・指導教官5名分の航空運賃, 宿泊費は学長裁量費および同窓会から計上された。

9. 研修日程

① 8 月 13 日午前 10 時に信州大学北門よりバスで出発し,午後 4 時東京成田空港に到着した。
QF70 便で午後 8 時 55 分に成田空港を出発した。

② 8 月 14 日午前 6 時 5 分にパース空港に到着した。カーティン工科大学国際教育担当者のオリエンテーションが空港ロビーで行なわれた。その後ホームステイ先の家族(ホストファミリー)の出迎えがあり,各々がホームステイ先に出発した。学生はホストファミリーから,ホームステイ先での生活の規則,通学経路の案内(ホームステイ先は大学から徒歩 15 分の所からバスを乗り継ぎ約 1 時間かかる所までいろいろある),周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。

③ 8 月 15 日 Curtin 工科大学にてオリエンテーション,英語力診断試験,キャンパスツアー,パース市内バスツアーが行なわれた。

④ 8 月 16 日ー9 月 2 日,英語および医療英会話の授業,ヘルスケアに関する講義,専攻別専門領域の講義, 実習,施設見学のプログラムが実施された。プログラムの詳細を P10～13 に示した。

⑤ 9 月 2 日午後 10 時 30 分,Farewell Lunch, Graduation Ceremony(修了証書授与式)が行なわれ,学生が一人ずつ英語で挨拶をした。午後 3 時に学生はホームステイ先に帰宅し,午後 7 時 30 分,ホストファミリーに送られてパース空港に集合,午後 9 時 45 分 QF79 便にてパース空港を出発した。

⑥ 9 月 3 日午前 9 時 35 分,東京成田空港に到着した。バスにて帰松し,信州大学北門に午後 4 時到着した。

← 只今, カーティン-信大ニュースを
発信中？
英語教員と楽しい授業でした。

第 1 週, Curtin 工科大学教員による English language class

10. 研修プログラム **Shinshu University Health Sciences Study Tour**

(15 August to 2 September 2005)

GROUP A (Nursing and Midwifery students)

Curtin University of Technology

Week One

Time	Sunday 14 Aug	Monday 15 Aug	Tuesday 16 Aug	Wednesday 17 Aug	Thursday 18 Aug	Friday 19 Aug	Saturday 20 Aug
9.00	Arrival at Perth Airport QF70 6.00 am Briefing with Curtin staff 8.00 am Students to be collected by homestay hosts 9.00 am	Orientation and welcome morning tea Campus tour English diagnostic test Student cards	English class	English class	English class	English class	Optional Excursion to Rottnest Island
10.30			COFFEE BREAK				
11.00			English class	English Class	Tour of Nursing,Physio and Biomed Facilities (separate groups)	English class	
12.00		LUNCH					**Sunday**
1.00 - 3.00		**12.45 – 3.30** Bus tour of Perth	Hospital communication for health professionals			FREE	FREE

Week Two

Time	Monday 22 Aug	Tuesday 23 Aug	Wednesday 24 Aug	Thursday 25 Aug	Friday 26 Aug	Saturday 27 Aug
AM	**10 – 12 am** Health Care Careers: Professional Structures in Australia **Louise Horgan**	**9.30 am** Morning tea with School of Nursing **10 – 12 am** Community Health Care **Ailsa Munns**	**10 – 12** Health Sciences Education at Curtin **Helen Fairnie**	**10 – 12** The Australian Health Care System **Pam Roberts**	Excursion to the Swan Valley - Caversham Wildlife Park, Sandalford Winery and Chocolate factory	FREE
12.00	LUNCH BREAK					**Sunday 28 Aug**
1.00	**1.00 – 3.00pm** Hospital communication for health professionals					FREE

Week Three

Time	Monday 29 Aug	Tuesday 30 Aug	Wednesday 31 Aug	Thursday 1 Sept	Friday 2 Sept
AM	**10 – 12** Aged care/ Geriatrics **Angelica Orb**	**10 – 12** Morning Tea with School of Nursing	**9.30 -11:30** Mount Hospital Lunch at Kings Park	**10 – 12** Rural Health Issues **Rosalie Thakrah**	Course Evaluation Graduation Ceremony Catered Lunch Night flight back to Japan
12.00	LUNCH BREAK				
1.00	**1 - 3** Quadriplegic Centre	**1 - 3** Royal Flying Doctors Service	**1 - 3** Craigwood Nursing Home	**1 - 3** Princess Margaret Hospital	

GROUP B (Physiotherapy, Occupational Therapy and Biomedical Science Students)

- **Week One**

	Sunday 14 Aug	**Monday 15 Aug**	**Tuesday 16 Aug**	**Wednesday 17 Aug**	**Thursday 18 Aug**	**Friday 19 Aug**	**Saturday 20 Aug**
9.00	Arrival at Perth Airport QF70 6.00 am Briefing with Curtin staff 8.00 am Students to be collected by Homestay hosts 9.00 am	Orientation and welcome morning tea Campus tour English diagnostic test Student cards	English class	English class	English class	English class	Optional Excursion to Rottnest I sland
10.30			COFFEE BREAK				
11.00			English class	English Class	Tour of Nursing, Physio and Biomed facilities	English class	
12.00		LUNCH					**Sunday 21 Aug**
1.00 – 3.00		**12.45 – 3.30** Bus tour of Perth	Hospital communication for health professionals			FREE	FREE

Week Two

Time	**Monday 22 Aug**	**Tuesday 23 Aug**	**Wednesday 24 Aug**	**Thursday 25 Aug**	**Friday 26 Aug**	**Saturday 27 Aug**
AM	**8 – 10** **Physio students only:** Neuroscience **All students: 10 – 12** Health Care Careers: Professional Structures in Australia **Louise Horgan**	**10 – 12** Community Health Care **Ailsa Munns**	**10 – 12** Health Sciences Education at Curtin **Helen Fairnie**	**10 – 12** The Australian Health Care System **Pam Roberts**	Excursion to the Swan Valley - Caversham Wildlife Park Sandalford Winery and Chocolate factory	FREE
	LUNCH BREAK					**Sunday 28 Aug**
1.00 – 3.00	**Physio students only:** **Group A 1-3pm** Neuroscience practical session **Peter Gardner** **Group B: 3 – 5 pm** Continence & Women's Health practical session **BK Tan**	Hospital communication for health professionals				FREE
	Other students:1- 3 pm Hospital communication for health professionals					

Week Three: Physiotherapy and Occupational Therapy students

Time	Monday 29 Aug	Tuesday 30 Aug	Wednesday 31 Aug	Thursday 1 Sept	Friday 2 Sept
AM	**10 – 12** Community Based Occupational Therapy **Trevor Goddard**	**10 – 12** Anatomy practical session **John Owens**	**9 a.m.** Brightwater Care Group Inglewood	**9 a.m.** Meet in the Foyer of building 408 to travel to IL C: The Niche (QEII Medical Centre. Cnr of Aberdare and Hospital Avenue **Sacha Penrose** Leave ILC at 11.30am for lunch at Kings Park	Course Evaluation Graduation Ceremony
12.00	LUNCH BREAK				Catered Lunch
1.00 – 3.00	**2 - 4** Optional visit to Lifecare Physiotherapy Clinic	**1 - 3** Fremantle Hospital **Stephanie Fullarton**	**1 - 3** Royal Flying Doctors Service	**1 - 3** PMH, Paediatric Hospital **Triston Hunter**	Night flight back to Japan

Week Three: Biomedical Sciences group

Time	Monday 29 Aug	Tuesday 30 Aug	Wednesday 31 Aug	Thursday 1 Sept	Friday 2 Sept
AM	**9.00** Private laboratory, Fremantle **Jeff Jago**	**9.00** Laboratory Practice **Jeff Jago**	**9.00** Royal Perth Hospital **Jeff Jago**	**9.00** Join Physio and OT students on ILC and PMH	Course Evaluation Graduation Ceremony
12.00		LUNCH BREAK			Catered Lunch
PM		**1 - 3** Visit to the Red Cross **Jeff Jago**	**1 - 3** Royal Flying Doctors Service	**1 - 3** Join Physio and OT students on ILC and PMH **Triston Hunter**	Night flight back to Japan

← Craigwood Nursing Home での講義

ちょっと緊張気味？

11. 学生アンケート

I　出発前の準備について

1　費用の捻出

	n	%
1)　家族が全額負担	18	62
2)　自己資金のみ	2	7
3)　自己資金と家族の支援	8	28
4)　その他	1	3

2　渡豪前の自己学習

	n	%
1)　自己学習をした	13	45
2)　何もしなかった	16	55

【事前学習した内容】

・英語・英会話

・オーストラリアの文化・地歴

・オーストラリア医療関連サイトの閲覧

【事前学習が必要だった内容】

・医学英語

・専門分野の予習・日本の医療システム

・オーストラリアの医療システム

3　研修プログラムの発表時期

（4月の新入生・在校生オリエンテーション）

	n	%
1)　適切	29	100
2)　不適切	0	0

4　参加申込み締切の時期

	n	%
1)　適切	25	86
2)　不適切	4	14

【コメント】

・6月中旬までのばして欲しい

5　出発前ガイダンスの時期

	n	%
1)　適切	29	100
2)　不適切	0	0

6　ガイダンスの内容

	n	%
1)　充分	23	79
2)　不充分	6	21

【コメント】

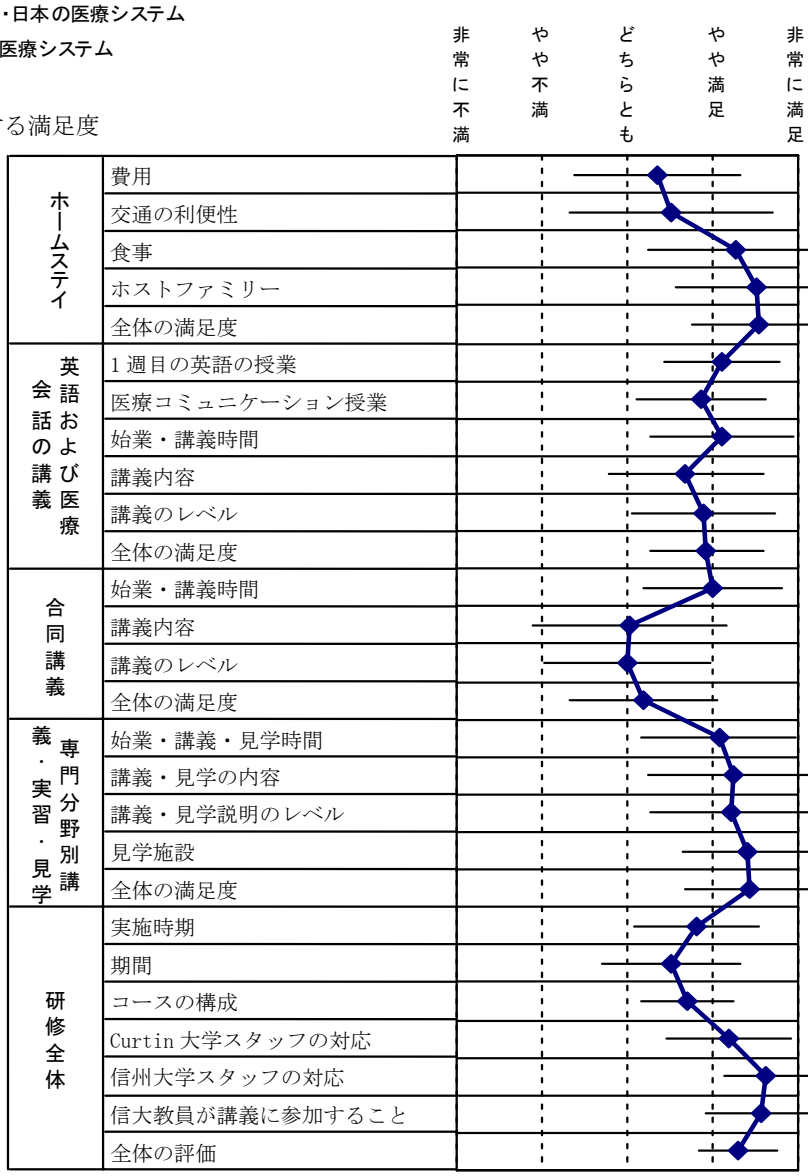
簡素すぎた

持ち物について、もっと

細かな説明がほしい

英語の講義を取り入れて欲しい

II. 研修に対する満足度



Ⅲ　自由記載分まとめ

1　　参加動機

1)　語学力を向上させたい

・　英語が好きで，外人と接したかったとともに英語力をアップさせたかったから

・　ホームステイをすることで英語力が向上すると考えたから

2)　海外の医療制度を学び，医療教育，実践現場に触れたい

・　海外の医療にも興味があり，将来海外で働いてみたいため

・　オーストラリアの医療施設を見学したかった

・　オーストラリアのPT教育を体験するため

・　海外の看護を見てみたかった

3)　大学主催のプログラムだから

・　信大を受験する志望動機の１つに，このプログラムに参加したかったという理由があった

・　個人的に留学するのは準備などが大変そうだが，信大でプログラムを組んでくれるのでチャンスだと思った

4)　夢を実現し，充実した夏休みにしたい

・　海外に行ってみたかった

・　ホームステイしてみたかった

2　　ホームステイ

1)　語学力の向上

・　英語に対して，積極的に接することができた

・　日常英語がわかった

・　英語を話す機会が増えてよかった

2)　人間関係の広がり

・　他のinternational studentと仲良くなれた

・　ホストファミリーと本当の家族のようになれた

・　同じホームステイ先の学生と仲良くなれた

3)　オーストラリアの生活・異文化を体験

・　オーストラリアの生活習慣や考え方について少しわかった

・　日本と違う文化を感じる事ができて，とても面白かった

・　外国の人と交流をもてたし，異文化を学ぶ事ができた

4)　自己の生き方に対する意識の変化

・　人種の壁を感じなくなった

・　多文化に触れて，また国際交流の機会を得る事ができ，自分の視野が広がったように感じる

3　　よかったこと，学んだこと

1)　英語力の向上

・　1週目で学んだ医療英語が2ー3週目に出てきてわかりやすかったし，役に立った

・　英語が少し聞き取れるようになったり，話せるようになったりしたこと

2)　異文化体験

・　3週間という期間いたことで，オーストラリアの文化を理解できた

・　日本では絶対できない経験ができたこと

・　週末観光ができてよかった

3)　人的交流の広がり

・　Curtinの学生と仲良くなったこと

・　PT，OT，NSの皆と交流できたのがよかった

・　いろんな国の人と友だちになれた

・　Perthに家族ができた

4)　専門分野や医療に対する視点の広がり

・ Curtin の学生が理学療法についてどんな勉強をしているのかを知る事ができた
・ オーストラリアの医療を学べ，日本との違いが大変興味深かった
・ 幾つかの施設を見学できてよかった

5) 考え方・視野の広がり

・ 言葉が通じない場所で行動するのは，とても大変だったが行動力が養えた
・ 日本とオーストラリアの違いを知る事ができて，もっと日本についても知らなければいけないなと思った
・ 勉強する意欲が湧いた
・ 新しい考え方が身についた

6) 楽しみながらの学習体験

・ 英語と医療コミュニケーションの講義は英語を勉強しつつ楽しむこともできてよかった
・ 英語，専門授業は内容を工夫していてとても面白かった
・ 実践的な授業だったので，授業で習った事がそのまま生活につながった

4 今後の自己課題，将来展望

1) 英語の必要性

・ もっと英語で会話する英語教育が必要だと思った。専門用語も英語で知っておくとグローバルに対応できるので，英語もこれから実用的なものを学びたい
・ 英語がいかに大切かわかったので，もっと英語を勉強しなくてはならないと思った
・ 勉強に対するモチベーションが大きく向上した

2) 専門分野や医療に関する学習

・ 同じ職種になることを目指して勉強している海外の学生を見て，自分も負けていられないと思った，やる気が出た
・ 与えられたものではなく，自己学習を増やすようにこれから頑張りたい
・ 日本の医療や大学教育などを広い視野で，他国と比較する事ができた，日本がもっと改善すべき点や，私自身がもっと勉強しなければならない事がわかった
・ 外国の医療にとても興味を持つことができた。オーストラリア以外の外国の医療システムも見てみたいと思った

3) 進路，将来展望

・ 卒業後，看護師だけでなくあらゆる可能性がある事がわかって，とても視野が広がった
・ 海外に対する興味が大きくなったので，将来の仕事のことを含め考え直そうと思った
・ 海外に長期留学してみたいとも考えた

DOLIE スタッフの Helen 親子と

12. 学生レポートおよび感想文

１） Curtin 大海外研修プログラムに参加して　　作業療法学専攻　１年　　05M1412B　平井 佑希

私にとって今回の海外研修は予想以上に有意義なものとなった。
これはすべて，機会を与えてくださった大学側の力添えがあってのことである。個人ではなかなか経験できるものでなく，同行された先生方を始め大学の諸先生方，本当に貴重な時間を過ごさせていただいた事に深く感謝したい。

この研修では言語を始め異文化の中で毎日，生活を送ること全てが新鮮であり刺激的なものであった。なかでも言語である。日本以上に，積極性や自主的な行動が求められていることである。つまり黙っていては何も望めず，技術的に進歩もしないのである。遠慮せず，自分の意思をはっきり伝えることが何より必要なのである。これは技術的なこと以前の問題で基本的なことではあるが，最も重要であるといえる。日本語であっても人前では堂々と発言できない自分にとっては大きな教訓となった。

講義等で学べたことを中心に簡単ではあるが現地での医療について述べる。ヘルスケアが抱える問題点は日本と同じくして，まず①高齢者への対応が挙げられ②高い医療費③私的な保険の加入率が低いなどである。全体として医療が病院にとどまらずコミュニティーベースでの１次予防的取り組みやケアが求められており，いかにして公正に資源を分配できるか，高齢者を主としたクライアントのニーズに対し適切な対応ができるかが焦点となる。作業療法士（以下 OT とする）の働きも病院から主にコミュニティーが中心となり高齢者への対応が重要となってきている。ただヘルスケアは医療だけの問題ではなく，行政・福祉との連携が不可欠である。それが国や市町村といった地域そして現場といった各レベルでの隙間を埋めることにもつながっていくといえる。

最後に研修を終えてだが，知識もまだ不十分で何か確信をもてたわけではないが，以前に比べ，私の中で世界は広がり人間的にも少しだけ大きくなったとは思える。ただ私は英語を始め，多くの点で解決し改善しなければならない問題も残されている。将来，国際的に十分活躍できる OT となるため，言語の壁に屈することなく主体的な自己学習を通して幅広い知識を得たいと考えている。また，この研修を機に若いうちにできる限り多く海外へと出かけ様々な経験を積んでいきたい。

２）Ｃｕｒｔｉｎプログラムに参加して　　看護学専攻　２年　０４Ｍ１１１２Ｋ　岩田 知香

私はこの Curtin プログラムに参加して多くの物を得ることができたと思います。日本では普段学ぶことができないものが，オーストラリアでの三週間の生活の中にたくさんありました。

私がプログラムに参加して学んだことの一つ目は，将来の道は一つではないということです。私は今まで大学で看護を学んだら，卒業した後は病院で看護師として働くのがあたりまえだと思っていました。しかし三週間の間にＣカーティン工科大学で看護の博士課程に通っている方や，オーストラリアで看護師として働いている日本人の方と話す機会がありました。その方たちは日本で看護師の経験をつんだ後オーストラリアへわたり，現在は自分のやりたかったことを実現させていてとても輝いていました。私は高校の頃から海外で生活することにあこがれており，将来は日本以外の国で仕事をしたいと考えていました。しかし大学に入り看護の授業を受けてみると授業についていくのが精一杯で，海外で仕事などとても無理だとあきらめかけていました。しかし今回私の夢を実現させている方と出会うことができ，私があこがれていた事は不可能ではないのだと知りまた夢がふくらみました。このような貴重な体験の中から，自分の将来にはまだたくさんの可能性があるのだと思いました。

二つ目は，世界はとても広いということです。普段の生活では私たちは世界の広さを知ることはできません。自分が生活する範囲しか知らず，それがすべてに思えてしまいがちです。実際私はニュースで海外のことを聞いてもあまり現実感がわかず，他人事のように思えてしまっていました。ところが今回オーストラリアというとても広い国に行くことができ，日本とは全く違う環境で生活することであらためて世界の広さを知ることができました。視界を妨げるものがなく水平線や地平線の見える景色，アスファルトのかわりに芝生がしげる道，道に迷ってしまうくらいに広い大学，今まで経験したことがない世界に接することができ，本当にこんな場所が存在するのだと知りました。そして自分がいままでいかにわずかのことにしか目をむけていなかったのかに気付きました。世界にはまだ知らないことがたくさんあって，自分が興味をもてることもたくさん残っています。これからまた日本での生活が始まりますが，今までより多くのことに関心をむけ，前よりも広い視野を持っていけるのではないかと思います。

三つ目は，英語でいろいろな人と話す楽しさを知ったことです。私はオーストラリアに行くまで，どのようにホストファミリーとコミュニケーションをとろうかとても悩んでいました。高校や大学で英語を学んできたものの，その内容は文法や英作文が中心で，話すことや聞く事はあまり練習していませんでした。しかしホストファミリーと対面してみると一気にその不安は消え去りました。国や言葉は違っても表情やしぐさで伝わるものはたくさんあり，同じ物を見て

笑うこともできます。私が積極的に話し掛けどうにか伝えようとすると，伝わるまで根気よくつきあってくれ，伝えようとする熱意があれば意思は伝わるのだと思いました。また会話において英語を聞き取ることができない時も，私があきらめない限り言葉を変えて何回も言い直してくれ，積極性と根気強さが大切だと思いました。英語で違う国の人と話すことはとても面白く，オーストラリアの一般家庭の生活や観光名所，日本のこと，文化の違いについてなど多くの人といろいろなことについて話すことができました。

今回プログラムに参加して，本当に多くのことを学ぶことができたと思います。オーストラリアの病院見学や，英語で看護の授業を受けることはこのプログラムでしか経験することができません。また，三週間という長い間現地に密着した生活をすることもなかなか経験することはできないでしょう。この経験を通して私は看護に対して，また人間としてより広い視野を持つことができるようになったと思います。また日本での生活が始まりますが，再度海外で働くという夢をもって残りの大学生活に望みたいと思います。とても楽しい旅でした。

３）　カーティン工科大学短期留学を経験して　　検査技術科学専攻　２年　　04M1219C 小林 沙綾

そもそも私がカーティン工科大学への短期留学プログラムに参加しようと決意した理由といえば，「日本の外を見てみたい」という極めて単純かつ安易なものだった。しかしこのプログラムで得たものは期待していた以上に多く，今となっては本当に行ってよかったと思う。3 週間の滞在のうちにできるだけ多くのことを経験しようと，毎日五感をフルに使って過ごした。一緒にこのプログラムに参加した日本人学生と話すとき以外は全て英語の生活は確かにハードだったけれども，日々の雑務に追われて過ごす日本での日々よりはるかに充実していたように思う。

まず英語力の向上については正直，まあこんなものだろう，といったところであるが，毎日授業で英語を聞き，ホームステイ先に帰っては英語で会話をするのでリスニング能力はだいぶ向上したように思う。始めは聞きなおすことの多かったホームステイの人の言葉も，プログラムの終わり頃には，聞きとった英文に加え表情，身振りの示すものを感じ取ってすんなり聞けるようになった。

一方のスピーキング能力に関しては，「いかにして簡単な文法，単語を使った英文で自分の言いたいことを表現するか」ということを覚えた。中学，高校と難しい構文をたくさん習ったけれど，実際現地の人が話す英文だって実はそんなに難しい文法を使っているわけではない。とはいえ語彙の少なさもあり，問題なく話せるとまではいかなかった。結局大学の学生とはほとんど交流のないまま終わってしまったし，コミュニケーションできないことは寂しいし悔しい。私の英語力は高校の入試を受けたときから低下の一途をたどっているが，またしっかり勉強して，次回訪れるときにはもっと自信をもって英語と接することができるようになりたいと思う。

オーストラリアは多国籍な国だ。人も，食べ物も。日本は基本的に日本人しかいない国だから，新鮮だった。街を歩けば様々な皮膚の色，髪の色，瞳の色をもつ人に出会ったし，外食をしに行けば中国，タイなどアジア料理からギリシャ，イタリアンなどヨーロッパまでほぼ世界の料理がそろっている。もちろん日本料理店もあり，特に寿司は　　ファストフードとして浸透しているようだった。（あまり美味しくはなかったが…）

ホームステイ先の人が話していたが，そもそも移民の国なだけあり，本当にオーストラリアは寛大である。私のような英語の拙い旅行者に対しても辛抱強く耳を傾け，言いたいことを理解しようと努めてくれ，見返りを求めずに親切にしてくれる。そのようなオーストラリアの人に何度も助けられた。

たくさんの親切に出会ったけれど，一番印象的だったのは，大学に通い始めた初日の登校時に乗ったバスで起こった出来事である。その日バスは混雑していて，優先席含め座席は全て埋まっていた。そしてあるバスストップで老人が乗り込んできたとき，私の前の優先席に座っていた「今時の女の子（金髪）」が何のためらいもなく，さっと席を譲ったのである。これはきっと欧米では当たり前の行動なのだろう。私だってその行動が正しいことであり，そうすべきであることくらいわかっている。しかし大抵の日本人はそれができない。本来ならこんなことで驚き，感動すべきではないのだろう。私は感動すると同時に恥ずかしかった。他にもオーストラリア感動秘話はたくさんあるが，きりがないのでやめておく。

今回のプログラムは私にとって初めての外国だったわけで，当然日本との違いばかり目に付いた。植物，気候，建築物などの環境，人，言語，食，マナーなど挙げればきりがない。1 週目の週末にはロットネスト島に行ったけれど，私は青い海を初めて見た。本当に感動して，「なんで日本の海はあんなに暗くて汚いのだろう」と思った。海だけでなく，街の風景など多くの点で「なんで日本は…」と思ってばかりだった。

そんなふうに 3 週間の滞在中，オーストラリアばかり賛美して日本を冷めた目で見ていたけれど，いざ日本に帰ってきて思ったことは「日本には日本の美しさがたくさんある」ということ。日本の風景のなんと雑然としていることか。それは日本のマイナス点であるとばかり思っていたが，それが日本なのだ。無宗教で，いろいろな文化がごちゃまぜに

なって雑然としている国。

島国だからこそ発達した日本文化が生み出した寺社などの建築物，随筆や短歌などの文学，浮世絵など美術，そして日本語はこんなにも美しいものだったのかと思った。特に日本に帰ってきて日本海を改めて見たとき，日本の海の美しさに初めて気づいた。青い海のような明るさを持ってはいないけれど，絶えず波が打ち寄せ，深く暗い色を持つ海は人に何かを訴えかけているような強い力を持っているように感じた。

このように私は，英語力を少し向上させ，オーストラリアの素晴らしさにたくさん出会い，文化の違いに驚き，そして何より日本の良さを改めて知った。本来の趣旨から外れているかもしれないが，「改めて日本を好きになったこと」が今回のプログラムで私が得たもっとも大きなことかもしれない。日本に住み，日々日本文化に触れ，日本語を使う生活に誇りを感じる。Graduation Ceremony でのスピーチで話したが，私はまた日本でいろいろな経験をして，素敵な女性になって，お金ができたらまたパースを訪れ，今回お世話になった人に会いに行きたいと思う。

４） カーティン工科大学研修プログラに参加　　検査技術科学専攻　２年　　04M1223A　平　千明

今回カーティン工科大学研修プログラに参加したことで，生きた英語でコミュニケーションをとることの楽しさ，他学年・他専攻・先生方との交流，オーストラリアの自然の美しさなど，三週間という期間の中で本当にたくさんのことを経験，学んできました。その中で，特に私が強く印象に残ったことについていくつか紹介したいと思います。

初めに，パースでの第一印象は異なる国籍の人たちがたくさん生活していたということでした。オーストラリアはもともと移住してきたイギリス人によって発展してきた国ではあるけれども，欧米人だけではなく西アジア，東南アジア，アフリカ，中国など様々な国の人々が共に暮らしています。だからこそパースの人々は訪問者にはとても親切で，会話をするときも聞き取りやすいように英語を話してくれたり，道を尋ねたときも丁寧に教えてくれたりしました。カーティン自体も留学生を多数受け入れており，お互いわからないことはキャンパス内で聞きあって解決していたので，英語の重要さも改めて実感できました。これだけ多国籍だと英語が世界の共通語であることを改めて痛感します。英語がしゃべれなければ，できることの範囲は非常に狭くなってしまいますが，言い換えれば英語がある程度話せるようになれば視野は広がり，日本という小さな枠にとらわれず世界に進出することが可能だと思いました。しかし同時に，日本の英語教育の甘さも実感してしまいました。私たちがカーティンで学んだ英語は，今日明日すぐに使える英語ばかりで，医療英語を学んでいるときも医者と患者を演じ合い，実用的なだけでなく非常に楽しく学べるものでした。また，実際にホームステイをしてそれぞれの家庭の一員となることで，遠慮することなく対等に接し，英語を話そう，聞き取ろうとする意思が強くなりました。三週間で英語が話せるようになるわけではないけれども，英語で話しかける恐怖心や不安感といったものはなくなり，逆に積極的にコミュニケーションを取り合おうとする気持ちが芽生えました。そのような気持ちが，今後英語を学ぼうとする意欲を促進させる原動力になることが間違いないであろうと確信します。

次に，パース市内のバリアフリーについて話したいと思います。まず私が驚いたことの一つ目は，オーストラリアの一般家庭はレンガ造りの平屋が多く，段差が全くなかったことで，二つ目は歩道橋が階段ではなくスロープ状になっていたことでした。どちらも，車椅子の方や，乳母車を押している人，高齢者を考えたつくりになっており，階段の昇降という最も難点を見事取り除いてありました。また，車椅子や乳母車と一緒の人がバスに乗るときは車高が低くなるようになっており，バリアフリーが徹底していることに感心しました。カーティン内でも必ずどの専攻の建物に入っても車椅子用のトイレがありました。電車も障害を持った方も健常者と同じように利用しており，そもそもそういった概念がないかのように全員が暮らしているので，これこそ日本が目指すプライマリー・ヘルスケアの理想とも言えるのではないかと思いました。ただパースは人数比に対して土地が広いことや，税金による医療費なども違うためそういった福祉対策も充実したものにできると考えられるので，日本と比べるのには無理があるかもしれませんが，見習うべきところは少なからずあるものだと私は思います。

さらに，同じ専攻の授業や関連する施設見学に参加できたので，私は検査について学んできました。機械や新技術などは日本のほうが進んでいる感じがしましたが，検査項目や検査内容といったものはほぼ日本と同じでした。　ただ，オーストラリアでは検査の国家資格が必要なく，州で認められれば検査技師になれてしまうので，オーストラリアで学んだとしても日本では働くことができないのが残念だと思いました。しかし，カーティンでは顕微鏡だけでなく遠心分離機も一人一台与えられており，スクリーンも一部屋に二つあり，勉強しやすく興味を持ちやすい環境でした。日本は知識をたくさん得ることはできますが，学ぶための環境が万全とはいいがたいのでどちらも備えるということは難しいことなのだと感じました。機会があればオーストラリア以外にもアメリカ・ヨーロッパなどの大学や検査センターも見学してみたいと思いました。それに，日本でしっかり学んで留学するということも興味深いことだと感じました。

最後に，オーストラリアの自然は日本とは違う美しさで大変感動しました。海といえば日本海しか見たことがなか

ったのでインド洋で水平線を見ることができて幸せでした。また地平線も初めて見て，カンガルーやコアラ，その他オーストラリア独特の動物を見て触れ合って，興奮しっぱなしの毎日でした。そして，それを仲間たちと共有しあえたことは何物にも変えがたいことだと実感しています。今回のこの研修旅行で多くの友人ができ，先生たちともたくさん話ができました。ホームステイ先も大変居心地がよく，一生忘れられない思い出となるでしょう。しかし，この海外研修をただ楽しかった思い出にはしたくないので，もっと専門の教科と英語を学んで，もう一度パースを訪ねたいと思います。本当にすばらしい体験でした。

５）　異文化を体験して　　理学療法学専攻　２年　　０４Ｍ１３１７Ｃ　藤原 祐介

自分は「夏休みを有意義に過ごしたい」，「英語の力を伸ばしたい」，「海外の医療を知りたい」そういう動機からこのプログラムに参加を申し込んだのですが，この３週間で得たものは想像以上に多く，貴重なものであったと思います。異文化を体験して感じたことは，日本人がいかに時間を気にして生活しているのかということでした。オーストラリア人のアバウトな感覚には正直戸惑いもあったけど，そこが彼らの良さであり，時間に正確な所もまた日本人の良さであると感じました。Perth City から少し離れた街は，オーストラリア人の気質通り，どの家も特徴的で広い庭を持っていて優雅な印象を受けました。

また大きな公園が何個もあり，飛び回っている子供たち，のどかな時間の中で芝生に寝ころがる人々，散歩をする人と犬など素晴しい空間をつくりだしていました。そして日本には無いこの光景を見るたびに，この国に来て良かったと思いました。けれど，この国に来て良かったと思うことはオーストラリアを知ったことだけではありませんでした。というのも，私のホームステイ先には香港人，インドネシア人，サウジアラビア人など実に多くの国籍の人たちがいたからです。そしてこれが実に面白かったです。英語と母国語が似ているせいなのか，それとも彼らの国民性なのか，身ぶり手ぶりも自然にでてくるし，話しぶりもそれぞれ特徴的で，実に自信にあふれていると感じました。一年以上オーストラリアに生活している人がほとんどだから英語に自信があるのは当たり前と言ったらそれまでなのだけど，アジアの人たちが普通のように英語を話している姿にはただただ尊敬してしまいました。その一方で，自分はつい，おとなしくなってしまっていました。一対一で話しをしている時には相手も気を使ってゆっくり話してくれるのですが，多人数で話す時にはスピードも速く理解しようとするだけで精一杯だったからです。もっと積極的に話さなくてはという反省と自己嫌悪の念はいつもつきまとっていたけど，そんな彼らとのギャップの中から見えてきたことも色々ありました。それにお互い同じ屋根の下で生活し，お互いの文化の違いや考え方の違いなど学ぶものも多かったと思います。

今回の短期留学で自分の英語で話をし，彼らと友達になれたことは，何にも代えがたい宝物になったし，理解しようと努力してくれた彼らに感謝したいです。また互いの母国語を知らなくても会話が成立できる，国際語としての英語のありがたさなども感じました。英語のおかげで様々な国から来た人たちが国境も言葉の違いも関係なく話すことができ，家の中はまるで一つの家族のようでした。慣れてくるとホームステイ先の友達とも英語で気軽に会話できるようになり，それは自分達の仲を深めることにもなりました。結局自分はどこにいても，何語をしゃべれなくても自分であると開き直れたのが大きいと思います。失敗も恐れなくなったし，三週目にして精神的にもようやく落ち着いてきました。もう少し長い期間いることができたら，さらに色々な経験ができたのにと残念にも思います。

そして訪れた場所で素晴しかったのは，ロットネスト島です。ここは自然そのものの中に道があるだけといった感じで，かなり気持ちよく気分爽快でした。日本にいては確実に体験できない所だなと感じたし，オーストラリアで見たものの中で一番といっていいくらいこの島の景色が好きでした。これ以外にも，この３週間に体験したことは書ききれない程あります。大自然に触れたピナクルズへのツアーや，動物園，友達との食事，皆で行ったパブの思い出など，まだ親しくない友人とでもパブで一杯飲みながら，という雰囲気の中では，いつも以上に気軽に話せるものがありました。そんな貴重な社交場の存在も，オーストラリアらしくていいなあとしみじみ思いました。

こうやって振り返ってみても，この夏に味わった体験が，いかに自分にとって意味深かったかをしみじみと感じます。文化，英語，医療の研修と言うだけでは足りないぐらいのことを感じ取ってきたと自分では思っています。百聞は一見にしかずとは良く言ったもので，異文化の中に飛びこんで教わってきたことは，本からも映像からも得られない貴重なものでした。今まではカーティンのプログラム外についてばかり話をしてきてしまったが，もちろん一つ一つのプログラムがとても有意義なもので大学での生活は楽しかったと共にとてもためになりました。

しかし正直なところ，留学で何を得たかというと，今ははっきりと分かりません。と言うのも，今回体験したことが，三週間だけ切り取って考える訳にはいかない，つまり，手に入れたものはパースへ行っている間だけのものではなく，今後の人生に活かされていくと思うからです。確実にいえるのは，専門教科への勉強意欲が増したこと，新しい友達と出会ったこと，オーストラリアが気に入ったことぐらいです。今自分は，日本へ帰国して一味も二味も違う新鮮な日

本を楽しんでいます。帰ってきたら日本は変わっているように感じるし，急に価値を見つけたものも，逆にがらくたに思えるようになったこともあります。これらのことを考えると，どれだけ大きな変化が，自分のなかに起こったか改めて気が付きます。しかしそれを言葉にして表現することが今の自分にはできません。実態はわからずとも，ゆっくりとパース効果を確認しつつある今日この頃です。自分が考えるに，今回の研修を真の意味で成功といえるようになるのは，今後の自分の頑張り次第だと感じます。カーティン大学での専門授業はどれも面白いものばかりで，自分の勉強意欲に火をつけてくれたと感じます。今が大学二年生，後二年もたてば職場についているのかと感じると，このままでいいのかなと考え込んでしまいます。自分の理想とするＰＴに近づくためにも，今回の研修での経験を活かしてより多くの情報を自分の中で集めていくことが必要だと感じました。今後の自分を築いていき，後で振り返ったときに，今回の研修が大きな支えとなってくれている，今からそう期待しています。それだけ今回の研修は自分のためになったと感じています。

もしかしたら一生経験できなかったであろう機会を与えてくれた信州大学のカーティンプログラムに，今，とても感謝しています。そしてこのプログラムへの参加をサポートしてくれた人たちに，このプログラムで出会った皆に，この場をかりてお礼を言いたい，そんな気持ちでいっぱいです。

６）　－ 私の３週間　－　　看護学専攻　２年　04M1133Ｂ　　酒向 里英

私のオーストラリアで過ごした３週間は全てが新鮮で貴重な体験であった。この３週間で学んだり，感じたりしたこと４つを述べる。

一つ目に，私が３週間のこのプログラムを通して一番印象に残っていることは，将来の道は人それぞれ，たくさんの進める道がある，ということだ。私は今，看護学を勉強し始めて２年目であるのが，将来はどこかの病院で看護師として働くのが当たり前だと思っていた。今は看護師になりたいと強く思っているわけではないが，他に特に進みたい道があるわけでもなく，看護師という職業も悪くはないのでこのままの流れで，大学を卒業したらずっと看護師として働いていくしかないと考えていたのだ。しかし，このプログラムの中で出会った日本人の方の話などを聞いて，将来の道は大学で看護の勉強をしたからといって，看護師になる道しかないわけではないと思った。Curtin 工科大学にある看護の大学院で研究をしながら，病院で看護師として働いていらっしゃる方や，Perth のある私立病院で働いている日本人の看護師の方もいらっしゃった。その方々の話を聞かせて頂いて，自分の中で少し価値観が変わった気がした。日本で看護師として働くだけが道ではない。海外へ出て英語の勉強をし，看護師として働く。又は日本では学べない何かを求めて海外の大学院で研究する。日本の病院や制度と違う国で働き，比較してみる。これらは看護の道ではあるが，それ以上のものが得られるだろう。自分がこれをやりたい，ここへ行ってこんなことを学びたい，と思えば誰だって実現可能なのである。当たり前のことであるが，実際にそのような生活をしていらっしゃる方と話をしたりして，とても実感した。このことが私にとって一番の収得であった。大学を卒業して普通に看護師になる道もあるが，もっと視野を広げてできるだけ多くの経験が出来たらな，と思う。

二つ目に，私はこの３週間で先生方や友達の大切さをとても痛感した。異国の地で周りが英語ばかり，慣れない家に帰っても気が落ち着くわけはなく，全然違う環境での３週間は精神的に疲れが溜まる。そんな時支えてくれたのが先生や友達だった。ホームステイ先でうまくいかない事があった時も励ましてくれた。辛い時だけでなく，楽しい時間も一緒に過ごした。休日に遊びに行った Rotness Island で，友達と一緒に自転車をこいで必死の思いで一周したこと，Fremantle で一緒に買い物をしたりお昼ご飯をいっぱい食べたこと，などたわいのない事でもものすごく楽しかった。看護２年生が１１人だったこともあり，大人数でわいわい騒いで心から楽しいと思え，みんなと一緒に過ごすことができて本当に嬉しかった。違う専攻の人や看護の中でも最初はそんなに話したことがない人も，３週間同じ時間を過ごすことにより，仲良くなることが出来た。先生方や友達がいたからこそ，こんなにも楽しい３週間が過ごせたのだと思う。これからもこの仲間，友達を大切にしていきたい。

三つ目は英語について。当たり前のことだが，日常の英会話，授業での英語などは多々困ったこともあった。自分の言いたいことがなかなか通じなかったり，相手の言っていることがなかなか理解できなかったりと。しかし，一番大切なことは英語力ではなく，積極的に話そう，聞き取ろう，とする姿勢である，ということが分かった。授業中も英語で説明されたり，質問されたりして英語が聞き取れなかったり，理解できなかったり，英語でどう答えたらいいか分からない時がほとんどだったが，そこで分からないからといって黙ってては英語が上達しないし，先生もどうしたらいいか分からないまま授業が進んでいってしまい，お互いにいい思いはしないだろう。分からなくても積極的に聞いたり，話したりすることによって，時間はかかるかもしれないが先生とコミュニケーションが取れたり，少しずつ上達したりするのである。これは英語力だけに言えることではない。普段の授業でも分からないことを分からないままにしておくの

は，自分にとって全くいいことではない。私は高校生の時にホームステイを経験したことがあり，英語力には少し自信があった方だったが，やはりなかなか自分の思う通りにいかず，英語に対して自信を無くしていた。初めは英語を話すのも恥ずかしかった。しかし，話さないと何も始まらないと思い積極的にいくことに決めた。異国の地でできるのだから，日本の普段の授業でも恥ずかしがらずに分からないことは聞きに行き，自分のモノにできるようにしたい。

四つ目に，Perth の病院や施設を見学して感じたのは，やはり日本と全然違うなということだった。尊厳死を尊重していることや，病院・施設に長期間いる人のことを考えた環境や対応などは，オーストラリアの方が進んでいるのではないかと感じられる面もあった。私が一番印象に残っていることは，Princess Margaret Hospital にいらしていた clown doctors だ。「この職業をやっていて良かったなと思う事は何ですか」という質問に対して，「重い病気に罹っている子どもは，普段まったく笑わないの。その子たちの母親はとても不安で心配し，ストレスが徐々に溜まっていく。でも，私達が来てショーをやるとその子たちが笑ってくれる。それを見た母親が嬉しくて涙を流すんです。それを見るとやっていて良かったと思えます。」という答えに私は胸が熱くなった。これは医療従事者には出来ないことではないだろうか。「医療」という面から考えると少しでも痛みを軽くしようとしたり，カウンセリングなどを行なったりするが，この clown doctors は人々の心の奥にある痛みや不安をショーをやることによって取り除いている。「医療」という面からではなく，「子ども」という面から。この clown doctors は世界規模の政策らしいが，日本ではほとんど普及していないだろう。この制度は日本も取り入れるべきだと思う。私は少しでも患者の立場にたって物事を考えたりできる看護師になりたい。私は正直，日本の医療状勢を詳しく知らないので，オーストラリアと日本を比べることがそこまで出来なかったが，日本には日本のいい所，オーストラリアにはオーストラリアのいい所があるわけだから，お互いにお互いのいい所を取って，もっと患者にとって良い病院や制度ができるといいなと思う。

最後に，私は最初，このプログラムに参加することをとても迷っていた。しかし今は参加して本当に良かったと思っている。学生の時にしかできない経験，日本で過ごす夏休みではできない経験，この信州大学のプログラムでしかできない経験，など本当にたくさんの貴重な経験が出来た。この３週間で学んだことを少しでも今後の学生生活，または社会人の生活でも生かしていきたい。

↑ **ティータイム**：何を話しているのかな？

← **Princess Margaret Hospital のクラウンドクター**
病院で活動するプロのピエロです。パッチ･アダムスに影響を受けて始まった活動で，ユーモアを通じて子どもたちとその家族の心のケアに携わります。

Fremantle の private lab →
日本と同じように，精度管理を重視していました。

← Mount Hospital（私立病院）の見学
オーストラリアで働いく日本人看護師（2 列左）の方々にお会いし将来の夢がふくらみました。

カーティンの学生と一緒に実習中。

← PT・OT 実習
↓

先生，ちょっと良くわからないんですけど．．．

こんな狭い機内で治療するのって大変やなあ。

↑
Royal Flying Doctors Service →

C

← Caversham Wildlife Park

カンガルー君やウォンバット君と。

↓

← 体も鍛えねば！ ロットネス島でのサイクリング

いざ，出発!!

ロットネス島に到着。１時間余りの船旅でした。

↓

これから島巡りに行ってきます。

英語の授業でお世話になったMark先生(上段左)と

【編集後記】

カーティン工科大学プログラムも，本年で5回目を迎えた。学生交流に合意してから10年目にもあたり，同大学との関係が深まってきたことを感じる。学生にとっては，日本でイメージしていた看護，臨床検査，理学療法，作業療法の範囲を超えて，新たな発展の可能性を知る機会であり，英語や専門分野の学習を深めていく意欲をかきたてられる体験でもある。

ホームステイも大きな体験である。意思疎通の難しさ，生活習慣や食事の違い，表現する文化と察する文化のギャップなど，違和感やストレスを感じ，また発見や驚きがあり，その中から自分と自分の文化をふりかえるチャンスである。

実施5年目を迎え，新たな課題もある。諸費用の上昇に伴いプログラムをいかに効率化していくか，効率化の中で学生の安全や精神的サポートをいかに確保していくか，大学院設置も睨みながら，研究教育領域での交流をいかに発展させていくか，など，今後検討していく必要がある。

最後に本プログラムを支えて下さった教職員の方々，本プログラムに資金的な支援をいただいた同窓会の方々に，深く感謝申し上げます。　　(文責:柳澤理子)

::

「信州大学-Curtin University of Technology 大学間学術交流協定に
基づく平成17年度夏期海外単位認定プログラム　実施報告書」

2005年12月 1日

発行責任者:市川元基
編　集　:平成17年度夏期留学・単位取得プログラム担当チーム
発　行　:信州大学医療技術短期大学部／信州大学医学部保健学科

::